

令和元年度刀根山支援学第1回学校協議会議事録

日時 令和元年6月17日(月) 15:00～16:30

場所 本校 会議室

出席者(敬称略・50音順)

- 委員 井村 修(奈良大学社会学部 教授)
齊藤 利雄(独立行政法人国立病院機構大阪刀根山医療センター小児神経内科部)
高畠 俊英(豊中市教育委員会児童生徒課 主幹)
中里 ましほ(大阪府立刀根山支援学校 PTA 代表)
平賀 健太郎(大阪教育大学教育学部 教授)
山田 亨(学校法人大阪滋慶学園 教育顧問)

- 1 校長挨拶
- 2 大阪府立刀根山支援学校 学校運営協議会 要綱
- 3 委員紹介
- 4 出席者・事務局員紹介
- 5 令和元年度 会長・副会長の選出について
- 6 協議事項【委員からのご意見・ご質問】

① 令和元年度 学校経営計画について

- 道徳が評価の対象となることで、文章でも何を表記するか難しいところがある。精神医療センターの子どもさんの教科道徳の内容と教科書では異なる。支援教育課がどう考えているか聞いてみることも必要ではないか。
- 道徳については「私の家族調べ」などは、子どもによっては書けないこともある。
- たんに文章を読ませるではいけない。子どもがどう変わったかを評価することが大切。支援の場面でもどうするかを考えていかなければいけない。
- 道徳の内容にはいろいろな内容が含まれている。内容によってそれを伝えるのを迷うこともある。何を伝えるのか教員が考えるのも大切である。家族や関係者と話し合いながら決めるということも考えてもいいのではないか。
- (子どもが病気で亡くなるという内容について) 自分子どもと重なる場面があれば、必ず親に話してほしい。高校生なら教科書も読めるので。教科書だからとすぐに渡すのではなく、確認してほしい。
- 道徳でも教科書を使わないといけないのか。命という項目に関しては違う教材を使うということを考える必要があるのではないか。
- 教科書の内容をみて、保護者と相談する必要がある。

② 本校教育部でのICT活用の現状について

- ホームページで取り組みを見ていた。eスポーツは障がいのあるなしに関係なく参加できる。視線入力の使い方に長けている生徒の能力が認められるのはすばらしい。昨年度、学校で作成した実践報告集もすばらしかった。校長裁量予算で、増刷していろいろなところに渡すと良い。支援学校を知らない人にもよくわかる。知りたいというきっかけになるのではないか。

③ シラバスの作成について

- 病弱の支援学校なので、その時に子どもがどのくらい在籍しているのかわからない。支援教育に関しては、すべて個別に対応しているのだから、シラバスはなじまないのではないか。
- 選択授業を選べる材料は欲しいが、シラバスまでは必要ないと思う。

7 報告・連絡

- (1) 各部署の状況について
- (2) 令和元年度の地域支援に関する取り組みについて
- (3) 教科書選定について

8 その他

今年度の予定

第2回 日時 調整 会場 本校 ※別途、分教室の見学会を行う。